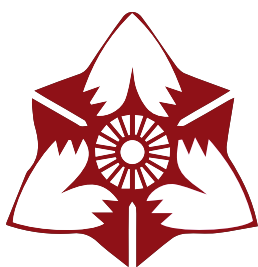


明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会

明鵬吟詠興隆会

会報第4号 2023年1月



2022年全国高等学校総合文化祭（東京都江戸川区総合文化センター開催）

ご挨拶

鵬翔流吟友会流 会長 梶田鵬翔



晩秋の美しい紅葉の季節になりました。庭先の菊の花も一層あでやかに清らかな香りを放っています。

2022年も残りわずかになり、新しい年を前に一年を顧みますと、あっという間の時の流れと共に、コロナ感染症も次々に変異し増減を繰り返すそのような中ではありましたが、全国高校総合文化祭が今年は東京の江戸川区総合文化センターで開催されました。今回は初めて華道吟に挑戦をする新たな試みでもあり、さらにコロナ感染症のために稽古日が約一か月遅れて5月よりスタートしましたので、練習にも緊張感がありました。

初めは「大和の四季」と題して春夏秋冬の漢詩や和歌を集めて表現したいと思いましたが、10分という限られた時間の中ではとても無理なので、タイトルは「大和の春秋」に変更し、春は吉野山の桜を、そして秋は東籬に咲く菊の花を吟じることになりました。生徒たちは中国の留学生NITPONNクラブの11名の皆さんで、生け花担当は、雷子航君、張景榕君、徐翌博君の3人です。

中西先生は、花材や、花器の選択、菊の花だけでは寂しいので、東籬に咲いている菊をイメージしてバックに垣をあしらう事にして、土佐市の花屋さんを訪ねてはアドバイスを頂き、試行錯誤しながら、真剣に取り組みました。その情熱に動かされて寄本先生もそして私も土佐市の花屋さんを訪ねて、創意工夫しながら当日を迎えました。高知県では他高校の吟詠剣詩舞部門の取り組みがなされておらず、明德義塾高校は、高知県を代表して、ただ一校のみの出場となりました。

先人の残された漢詩の中には、教育の原点ともいえる道教的なものも多くその精神性が脈々と息づいています。

また、それを吟じることには、声を練り磨き鍛えていく鍛錬こそが必須不可欠なものであり、一朝一夕に成し得可からざるものであることは言うまでもありません。したがって一つの事を継続して鍛錬することの苦手な多くの現代人にとっては、そのこと自体が馬鹿馬鹿しく思えるのかもしれませんが。

日本の伝統文化である詩吟をいかにして継承してゆくかは、吟詠ファンの人達の直近の課題でもあらうと思います。

さて、令和の年号に改まり、更なる破壊と建設の激動の時代に入りました。今、世界が大きく変わろうとしています。大切な未来を担う子供たちの教育に「何よりも礼節の道教ゆこそ教えの師たる者の務めぞ」と私の尊敬する岡田先生の言葉があります。まさに明德の精神そのものであり、明德義塾高校には大自然の緑豊かな山々、青く輝く海に抱かれて、勉学にいそしむ若人の夢が育まれる環境があります。

来年こそは、コロナ感染症の収束をと願いつつ、素晴らしい令和5年になりますように心からご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます

2022年度 新入メンバーを迎えて高文祭りに受けて猛特訓

東京で8月に開催される高文祭まで、5月連休明けから、3か月間の詩吟の稽古が始まった。今年は、今まで稽古した生徒は少なく、初めて詩吟をする生徒が多く11名であった。しかもコロナ禍であり、マスクをしての発声であり、個人個人の声ははっきりととられず、口形を確認することが出来ずに稽古が始まった。生け花も初めての試みで、5分間で生けなければならず、舞台からよく見える必要もあった。厳しい練習の日々であった。生徒達は、まだ日本語も充分ではないので、一生懸命の努力をしていた。



華道吟（女子）

和歌 吉野山 八田知紀（はった ともりの）

よしのやま 霞の奥は知らねども
見ゆる限りは 桜なりけり

（漢詩）吉野に遊ぶ 菅茶山（かん ちゃざん）

一目千株 花ことごとく開き

満前唯見る 白鎧鎧（はくがいがい）

近く人語を聞けども 處を知らず

聲は香雲 團裏自り（だんりより）来る

中国語朗読

（漢詩）菊 花 直江兼統（なおえ かねつぐ）

菊は秋日に逢うて（おうて）露香奇なり

白白紅紅 華枝に満つ

好し 西施（せいし）が旧脂粉を把つて（とって）

淡粧（たんしょう）濃抹（のうまつ）して 東籬（とうし）に上さん

通訳：菊と穏やかな秋の陽ざしが。何とも心地良い。

白い花や紅い花が咲き誇っている。

この美しさは中国の絶世の美女、西施の白粉姿を

思い浮かべてみよう。そして露にひかり輝く

菊の花にも薄化粧や濃い化粧を施して、

東の垣根に咲かせてみよう。

第46回全国高等学校総合文化祭東京大会

とうきょう総文2022：吟詠剣詩舞部門

会場：江戸川区総合文化センター

開催期間：令和4年8月4日(木曜日)



吟詠剣詩舞部門 マスコットキャラクター・ゆりー



会場：江戸川区総合文化センター



3階からみた舞台会場



他高校生の剣詩舞

国技館から近い、会場で全国25団体府道県から集まった生徒達による吟詠剣詩舞部門は、漢詩や和歌を独特の節回しで吟じる「詩吟」と、剣を用いて舞う「剣舞」、扇を用いて舞う「詩舞」を総称した日本の伝統芸能です。

「詩吟」は腹筋を使いお腹から声を出すようにします。「剣舞」と「詩舞」は勇壮な動きや、目線・指先の細かな動きで状況や感情を表現します。若さ溢れる凛とした高校生ならではの舞台をぜひ御鑑賞ください。

吟詠剣詩舞部門 実行委員会



華道担当を除く生徒による合吟、漢詩 「吉野に遊ぶ」



華道担当による演技



参加者の記念撮影

大会を終えて

明德義塾高校 詩吟部主将 雷子航ライシコウ(高3)

NIPPONクラブに入部して二年以上が経ちました。日本語の習得と日本文化に興味があり、留学を決意した私にとって、有意義なクラブです。クラブの活動内容は詩吟のほか、生け花や陶芸の体験があります。その中でも詩吟は活動の中心です。詩吟は外部で発表する機会が少ないなか、昨年度より高知県高校総文郷土芸能部門大会のなかに、吟詠剣詩舞部門の発表の機会を作ってくれました。

これは全国総文祭の予選会に相当するものとして、私たちは東京総文への出場の推薦を貰うことができました。また、東京で開催されることについて、日本の首都の賑わう様子を肌で体験できるため、全国大会出場できることをとても喜びました。詩吟とともに全国高校生花生けバトルの練習にも取り組んでいたことから、今年の東京総文は、詩吟と生け花を織り交ぜた「華道吟」に挑戦することにしました。

本番前日の交流会は日本の高校生と様々な意見交換を通じて、国際交流がこの機会に出来たことに感謝します。翌日の大会当日では、私たちは必ず花生けと詩吟を頑張らましよう、全員で誓いました。10分のわずかな発表のなかで、竹と菊にスポットが当たりながらの力強い表現を心掛けました。吟詠は正しい日本語をマイクに声量が乗るように吟じました。

先生が私たちにこのような舞台を提供してくれてありがとうございました。NIPPONクラブの主将としてとても光栄です。

高文祭参加者の感想文



チョウ イシン 張 偉進

今回の東京総文祭吟詠剣詩舞は初めて出場します。今回はたくさん
のを感じさせてくれました。第一、今回は各県の代表が出席し、皆さんの
努力と熱意を見せていただきました。第二、ステージに上がる前は緊張し
ていましたが、みんな真剣に今回の試合に臨んでいました。負けられない
という気持ちで臨みました。チームワークを学ぶことができました。



ヨウ キントウ 姚 欣彤

私たちの夏休みの間に詩吟の試合があります。夏休み前もずっと詩吟の
練習をしていて、毎週の木曜日と練習します。みんなも真剣に頑張っています。
3時から5時まで練習します。女子は二人だけそしてとても努力しています。
8月3日、私たちと先生と一緒に東京へ行きました。皆さんは楽しみにして
います。

午後に目的地について、私たちは一緒に現場のリハーサルに行って、明日
の公演の準備でした。リハーサルが全て終わった後、先生たちとまた私たち
をホテルに行きました。夜になると先生は心を込めて私たちは中華料理に

行って食べます。澤田先生は私たちのテーブルの上で料理に乗るのを手伝ってくれました。料理が
美味しくてお腹いっぱい嬉しいと思います。

8月4日、私たちは正式に全国詩吟大会に参加しました。違う文化を見ました。他の人の剣を見た
こともあります。舞台が大きくが演出も素晴らしかった。私たちも演出に終わりました。全部歌いました。
3日後に学校へ帰りました。詩吟老師は責任が強いです。先生たちもお疲れの様でした。



ライ チュウ 籟 智勇

私たちは東京に行って詩吟大会に参加しました。試合の会場に着いた
とたん、私たちの周りにはたくさんの参加選手がいて、一瞬にしてストレス
と緊張を感じました。リハーサル室で、先生は私たちをリラックスさせて、
私たちにトレーニングの最高の状態を出してもらいました。その後、私たち
はリハーサルが終わってホテルに来て休み、休みが終わって、先生は私たち
を連れて中華料理を食べに行きました。

この食事は両親が作った料理を思い出して、翌日になって試合現場に来た。私たちの公演を始める時、
私の心の中にはただ一つの考えがあって、詩を頑張って吟じて、自分の努力を無駄にしないようにして、
後に私たちは確かに前のリハーサルよりも良いレベルを発揮して、これはすべてみんなの努力の
結果で、後に私たちは学校に帰ると思っていたが、嵐に遭遇して、飛行機が止まって、私たちは飛行場
の近くで、ホテルに泊まるしかなかった。

今回の詩吟大会は私にたくさんのことを学ばせてくれた、努力してこそ成功できることも知っている。



ショウ シセイ 鐘 梓誠

最初、私は詩吟を教えてくださいました3名の先生方、ありがとうございました。
それで、私はNIPPONクラブのサポートもありがとうございました。今回の
詩吟大会を通して私は成長しました。チームワークとは何か教えてもらい
ました。

今回のとうきょう総文祭はとても良い経験でした。とてもありがとうございました。



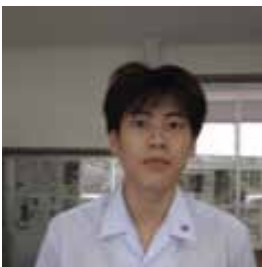
ジョ ヨクハク 徐 翌博

東京に行って全国大会に出場すると知ったときは本当にドキドキしました。東京に着いたらさらに東京の賑わいに惹かれました。会館に到着してリハーサルをしていると、日本各地の学校から来て、みんなが頑張っているのを見て、本当に緊張して、興奮して、少し誇りに思っていました。リハーサルではみんな頑張って、一日中とても忙しくて、みんなも疲れていましたが、みんなとても真剣に頑張っていました。翌日になってステージに上がると、ステージに上がる前は緊張していたにもかかわらず、ステージに着いて、明かりが私の体に当たって、私はまた穏やかになって、終わるまで、私のあの興奮した心はまた飛び上がって、やっと完成しました！
私たちはできました。学校に帰っても今回の東京旅行をととても回想して、興奮しています。



ライ シコウ 雷 子航

日本語クラブに入ってから、一年以上の詩吟練習を経て、先生の努力によって、私たちは東京全国大会の詩吟の資格を手に入れて、みんなはとても喜んで、まず先生が私たちを大切に育ててくれたことに感謝して、みんなも全国大会で表現するように努力して、みんなはやはり先生の希望を裏切ることなく、よく表現しました。
今回の東京旅行で私も多くのことを学び、東京の賑わいも見てきましたし、日本語部の部長としてもとても光栄です。
先生が私たちにこのような舞台を提供してくれて、みんなで才能を見せてくれて、ありがとうございました！



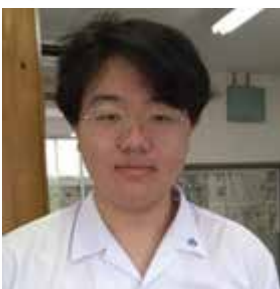
チョウ ケイヨウ 張 景榕

詩吟と生け花の時間、先生の助けに感謝して、今回東京に行くのはとてもいい体験だった、東京で初めて全国大会に参加するので、生け花の時に緊張しました。今回東京に行くのはとても楽しい体験です。
先生たちは私たちを中華料理に連れて行って、とても親切です。美味しかったね??。
先生、私たちにこの機会をくれてありがとうございます。



コヨウ 顧 洋

今回の全国高校総文祭は大成功でした。先生の日頃のご指導に感謝しております。皆さんは去年から詩吟の準備をしています。私はとても緊張しています。毎日しっかり練習する。
そうしたら舞台でやるとき、私は心の中で何度も緊張しないように自分に言い聞かせた。だからとても順調です。多くのことは心さえ込めば成功できる。学校は私にこのような貴重な機会を与えてくれてありがとうございます。先生方のご苦勞に感謝します。



ジョ ケイコウ 徐 啓皓

今回の詩吟大会は誰もが非常に努力している。先生の日頃のご指導に感謝しております。こんなに疫病が深刻な状況では授業を続けてくれた。先生お疲れ様でした。
今回も私たちは試合中に悪いところがあったが、私たちはたくさんのことを学びました。今回の東京行きも高校生活を豊かにしてくれました。学校は私にこのような貴重な機会を与えてくれてありがとうございます。先生方のご苦勞に感謝します。



シュチコウ 朱 治昊

8月4日に江戸川区の総合文化センターで私たちは詩吟を演じました。初めてそんな大きな舞台で番組を出演したので緊張したり興奮したりしました。それから先生たちのおかげで演芸は順調にできました。けどもっと良ければいいと思います。そして観賞席で色々地方の代表を演じた演芸は私を震撼させました。以上より、今回の全国大会は忘れない経験だと思います。



リュウ リキヒ 劉 力霏

8月3日、NIPPONクラブと一緒に東京へ行きました。一緒に頑張って一緒に張った私たちは詩吟の日本全国大会に出場しました。

誰もが緊張して興奮しています私たちはあまりよくないことをしているかもしれませんが、私たちにとっては最善を尽くしています私たちはこれに対して私たちがやったことを示しています。

私たちと先生と一緒に住んでいます。朝一緒にリハーサル彼らは我々よりも緊張しているはずだでも私たちが終わるとみんな笑顔になるステージに上がった時は確かに緊張していました私とヨウキントウさん緊張して手が冷たくなる初めて東京に行きましたが、本当に大きくて栄えている都市です早く大学を受験して東京に行きたいですね。

高文祭を終えて

大野 正夫



高文祭解散の挨拶 大野正夫

空港より、たくさんのビルが建ち並ぶ湾岸道路を40分ほど走り、大きな建物の会場についた。生徒達は、きっちりと組まれたリハーサルスケジュールに従い、本番の大ホールの舞台に立った。

立ち位置を決めた。生徒達には緊張感がみられる。3階のホールは広い。

本番は、コロナ対策で3組しか1階席の会場に入れない。先の生徒達は、剣詩舞であった。袴姿に槍と剣を持った姿に、驚いて鑑賞していた。明德の生徒は夏の半そでの制服であった。

一列の11名が揃うと清楚であり見ごたえがあった。ナレーションから2題に吟詠の間に、生け花の作業が行われた。生け花の花壇の前で、11名の合吟では、ホールに響き渡り、2階の一般席からは大きな拍手があった。中国留学生の吟詠への感動の拍手であった。

引率教員 詩吟班：黒竹俊介 引率教員 花生け班：澤田美紀

今年で4回連続となる全国高校総文祭。スポーツ高校生にとって日本一をかけて戦う青春時代の最高舞台であるインターハイに対して、文化クラブにも全国高校総文祭がある。4回連続となる本学は首都東京で「華道吟」に初めて挑戦した。

日ごろ、日本語の学習以外に、伝統文化の詩吟や生け花に親しむ環境を与えてくださった、鵬翔流吟友会の梶田会長、地元土佐市金子生花店様をはじめ、皆々様の温かいご指導のお陰で、素晴らしい経験を与えてくださっていますことに感謝申し上げます。

古の文化に興じることで、新たな知識と文化が生まれることを確信しています。そこには、日本における留学生が真の国際平和に寄与できる学生の創出にも結び付くものと意義深く、我々もこれらの取り組みに尽力してまいります。いまや全国には、半数の都道府県が高校総文祭に出場する組織すらなく、大会実施の継続性が危ぶまれています。どうか、この文化の灯を絶やさぬよう、努力いたしますので、どうぞこれからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

明日の本番に向けて夕食会 （国技館が見えるレストランで中華料理）



9月より新入部員による詩吟稽古始まる

2022年5月からの詩吟部の新入部員は、全員6年生であった。高文祭が終わることは部活動も終わることである。9月からの新入部員がどのくらい来るのか不安があった。高校1年生が7名と今までにない数である。高校2年男子2名女子生徒で11名であった。しかも皆、音声は良い。「期待できる部員が揃った」と安堵した。

下記の写真を見てわかるように、皆良い顔をしている。これからの練習が楽しみである。まだマスクをしての吟詠であるが、大きく口を上げて腹かそう。



干 浩洋 ウ コウヨウ



洪 宇超 コウ チキョウ



王 府興 オウ フキョウ



李 安基 リ アンキ



劉 予驥 リュウ ヨジョウ



徐 源浩 ジョ ゲンコウ



金 度穎 キンドエイ



曹 森栄 ソウ シンエイ



楊 哲昊 ヨウ テツコウ



盧 婧涵 ロ セイカン



劉 修亦 リュウ シュウエキ



黄 昀曦 コウ インギ

【1月より新入部員】

潘 子銘 シン シメイ 鄭 騫 テイ ケン GO MYUNGSEOK コ ミュンソク
楊 天爍 ヨウ テンシャク 範 羽妍 ハン ウケン 劉 熠辰 リュウ ユウシン

令和4年度第12回 鵬翔流吟友会流 風雅を楽しむ秋の集い
2022年10月23日 高知市南部健康福祉センター



鵬翔流吟友会の開会式・男性合吟・女性合吟・詩吟と舞

明德義塾高参加：新入部員の初舞台



第45回高知県高等学校総合文化祭・第24回高知県高校生郷土芸能大会

会場：高知県立美術館ホール(高知市) 開催日：2022年(令和4年)11月12日(日)

明德義塾高校生徒を引率して

中西 鵬鶯



令和4年11月12日、高知美術館ホールに於いて上記の大会が開催され、昨年が続いて明德日本クラブのメンバーも参加することになりました。芸能部門は和太鼓と詩吟であり、下記の5校でした。

追手前吾北分校「吾北清流太鼓」「無法松の雷響」、梶原高校和太鼓「鬼神退治」、明德義塾高校「歌謡吟詠弘道館賛歌」、特別支援学校光の村土佐自然学園和太鼓「組曲黒潮のうた」、明德義塾高校和太鼓「j o h n 宇佐」。

夏の東京江戸川区の総文際に出場した6年生(高3)は大学受験のためクラブ活動は終了・交代して、10月に中国より留学して来たばかりの5年生

(高2)数人を含めて男子8名女子2名の全員は新メンバーです。10月と11月の二か月間で練習は6回しかありません。日本語も詩吟もおぼつかない留学生ばかりでした。いかに短期間の練習で、歌唱力をつけ、早く生徒たちに詩文を覚えてもらうかを考慮して、初めての歌謡曲と詩吟の混成の「歌謡吟詠」に挑戦することになりました。稽古は1番2番の歌詞、聞き慣れない言葉が並んでいますが、歌謡曲の部分は順調に歌えました。

問題は詩吟(漢詩)の吟詠です。生徒も先生も一生懸命でした。いよいよ練習最終日を迎えました。あれこれと不安ばかりが頭をよぎります。「詩文カードを持たせましょうか?どうされますか?」と尋ねました。梶田先生は少し考えられて、当日は詩文を持たずに歌うことになりました。

当日、仕上げの最後のリハーサルで、梶田先生は生徒一人一人に魂を喚起さす言葉をかけてました。次第に生徒達の顔にも、真剣さと緊張感が漲ってきました。いよいよ本番に向かう生徒達の後姿を祈るような思いで送り出したのを覚えています。

緞帳が上がりました。私は指定された席の通路側に身を乗り出し、思わず腕を前後左右に振っていました。

「やれました!声も立ち姿も立派でした!」今迄で一番良い出来栄えだったと思います。

いつも子供たちの土壇場のちからには驚かされます。やり終えた子供たちの嬉しそうな安堵の笑顔が忘れられません。

明鵬吟詠興隆会・会報 第4号発行 2023年1月

明德義塾中高等学校・鵬翔流吟友会 明鵬吟詠興隆会

事務局：大野正夫 〒781-1164 土佐市宇佐町井尻226-2

Tel 090-7145-2456 Email: moseaweed@yahoo.co.jp